

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...

Vol.35

新しい生活様式 + α



最近、市民のみなさんにまちで会うと「市長さん、大変やなあ、コロナで」身体壊さんように気を付けてなあ」と私の体調を気遣って声を掛けてくださるかたが増えました。ありがたいことになっています。

自粛を求められていた全国の行き来が自由になって嬉しい反面、新型コロナウイルスがどこに隠れているか分からないという不安の中でお客様をお迎えするというのは、事業者の立場であれば気が休まることは無いと思います。これも観光地の宿命なのかもしれません。

さて、このコロナ禍の中にあつて、気づいた世の中の変化がいくつもあります。

まず、ホームセンターがよく賑わっていることです。かくいう私もたまに寄り道をします。花苗や肥料などの園芸用品を買い求める人、木材や工具などの売り場でDIYの秘策を練る人をよく見かけます。

二つ目は、道路脇や空き地の草刈りをされているかたをよく目にするようになりました。土地の所有者が手入れをされているものから、地域やグループで大掛かりにされているものまでさまざまです。地域のことは自分たちで、という機運が生まれつつあるのだとしたら喜ばしいことです。

三つ目は散歩やジョギングをする人が増えています。

市民の森周辺で各々がジョギングを、国道沿いや安楽島海岸にかけては、夫婦やファミリー単位で散歩されているかたが多く見られます。薄暮の中を和やかに歩く姿は、これまでの鳥羽にはなかつたなかなかいい光景です。

私も休日といえども、いつ感染者が出るとも限らない状況ですので、心はいつも臨戦態勢です。そんな中で私なりの新しい生活様式をいくつか紹介します。ゴーヤの苗をリサイクルパークで分けてもらい、ネット

は使用済みの海苔網を使ってゴーヤの棚づくり挑戦しました。また、ゴールデンウィーク前に仲間と気になる道路脇の草刈りをしましたが、今そこはすでに雑草雑木の逆襲が始まっていますので、再度の草刈りをしなければと考えています。また、朝熊から金剛證寺への登山にも再挑戦したいと思っています。伊勢志摩スカイラインは車で上ることしか頭にありませんでしたが、こんな楽しみ方があったとは大きな驚きでした。



感染症は完全に終息することはないと言われています。市民のみなさんにおかれては、第2波の懸念もささやかれています。不安もあるかとは思いますが、新たな感染拡大を防止するために引き続き「新しい生活様式」を実践しながら、少しずつでも自身の楽しみをプラスアルファしてみたいかがでしょうか。市では、引き続き感染拡大防止と経済の両立の取り組みを進めてまいります。



Vol.194
教育委員会生涯学習課
☎ 1268

負の連鎖を断ち切るために

聴く力・自分を支える力を高めること、「嫌悪・偏見・差別」を防ぐために、確かな情報を広め、差別的な言動に同調しないように、この事態に対応しているすべてのかたをねぎらい、敬意を払うことが重要であるとしています。

日本赤十字社は、「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！負のスパイラルを断ち切るために」という冊子の中で、コロナウイルスがもたらす「病気そのもの」「不安と怖れ」「嫌悪・偏見・差別」という3つの感染症としての「顔」を示しています。そして、この「3つの感染症」の怖さは、「病気そのもの」が「不安と怖れ」を呼び、「不安と怖れ」が「嫌悪・偏見・差別」を生み、「嫌悪・偏見・差別」がさらなる病気の拡散につながることであり、としています。

今回のコロナウイルス流行の中で、不自由さや理不尽さ、不安や恐怖を感じたかたも多いと思います。そしてその思いや感情を「自分事」として実感できたのではないでしようか。その思いや感情は、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、アイヌの人々、外国人、ハンセン病やHIV感染者への差別、同和問題（部落差別）、インターネット上の人権侵害、性的指向などの人権課題に直結し、被差別の立場の人々がずっと訴えてきたことと重なります。

また、「病気そのもの」を防ぐためには、「新型コロナウイルスに立ち向かうための行動（衛生行動）」を自分自身、そして周りの人のためにもすること、「不安や怖れ」に振り回されないために、気付く力・

日本赤十字社の冊子の最後には「それぞれの立場で、できることを行い、みんなが一つになって負のスパイラルを断ち切りましょう」と書かれています。新型コロナウイルス感染拡大防止だけでなく、人権問題を自分のことと捉え、解決していくためにも大切にしたいことです。